



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

14. 緑枝接ぎ法における簡易な台木育成技術の開発

[要約]

緑枝接ぎ法による苗木生産では、台木を2芽挿しで3月以降のできるだけ早い時期に圃場に直接挿し木することで、簡易かつ比較的高い確率で接ぎ木が可能な台木を育成することができる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

緑枝接ぎ法による苗木生産において、台木を健全に育成することは極めて重要である。現在、台木の育成はセルトレイに挿し木して温床で発芽、発根させた苗を苗圃に移植しているものの、年によっては移植した苗が順調に伸長せず、接ぎ木が可能な台木を十分に確保できないことがある。また、温床管理のための設備と労力が必要となる。そこで、台木の休眠枝を圃場に直接挿し木することで、温床管理を必要とせず、かつ移植を行わないスムーズな育成方法を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 土壌に挿し入れる側にも節を残して2芽挿しで圃場に台木を直接挿し木すると、1芽挿しの場合と比較して挿し木してから発芽までの日数が短い（表1、図1、2）。
2. 2芽挿しで圃場に直接挿し木すると、令和6年は4月上旬までに挿し木をすれば挿し木日に関係なく4月中旬頃に発芽した。令和7年は令和6年より遅い傾向で4月上旬までに挿し木をすれば4月下旬～5月上旬に発芽した（表1）。
3. 6月下旬の時点で接ぎ木が可能な苗の割合は、2芽挿しが1芽挿しに比べて明らかに高く、1芽挿しでは挿し木当年での接ぎ木はほぼ不可能であった（図3）。
4. 令和7年では4月上旬まで、令和6年では3月下旬までに2芽挿しで挿し木すると、接ぎ木可能率が40～90%であり、セルトレイで育成したものより接ぎ木が可能な苗の割合が高かった（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 圃場へ台木を2芽挿しする場合には、挿し入れる側の基部に節を残し、芽を完全に削いで調整し、土中に5cm程度挿し入れる。台木は挿し木前日から24時間水に浸漬しておく。
2. 挿し木直後に十分な量の灌水を行い、台木を土壌に馴染ませる。その後も土壌が完全に乾燥しない程度に灌水を行うことが望ましい。
3. 緑枝接ぎの適期は6月上～下旬頃で、それより遅れると新梢の伸長及び充実が悪く、良苗を育成することができない。
4. 試験は農業研究所（赤磐市）のブドウ圃場（砂壤土）にて実施した。
5. 本内容はブドウ苗木栽培手引き「緑枝接ぎ法」編の「台木の準備」の項に追記する。



[具体的データ]

表1 挿し木日の違いが台木「5 B B」の発芽日に及ぼす影響（令和6～7年）

年次	処理区 (挿し木日)	台木形態	発芽日	
			(月/日)	挿し木後 日数(日後)
令和7年	3月上旬 (3/5)	2芽	4/30	57
		1芽	5/27	84
	3月中旬 (3/19)	2芽	5/2	44
		1芽	5/14	56
	4月上旬 (4/3)	2芽	4/21	18
		1芽	4/30	27
令和6年	4月中旬 (4/16)	2芽	5/17	31
		1芽	5/18	32
	3月上旬 (3/7)	2芽	4/18	42
	3月下旬 (3/22)	2芽	4/11	20
	4月上旬 (4/5)	2芽	4/16	11
	4月中旬 (4/18)	2芽	4/30	12



図1 挿し木用に調整した台木

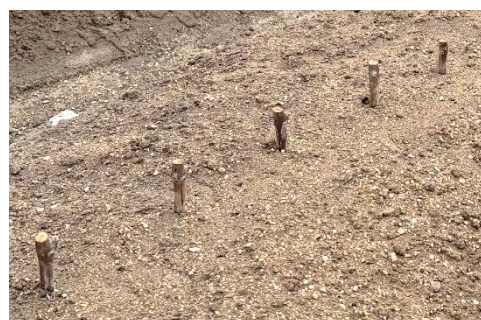


図2 台木を圃場へ直接挿した様子

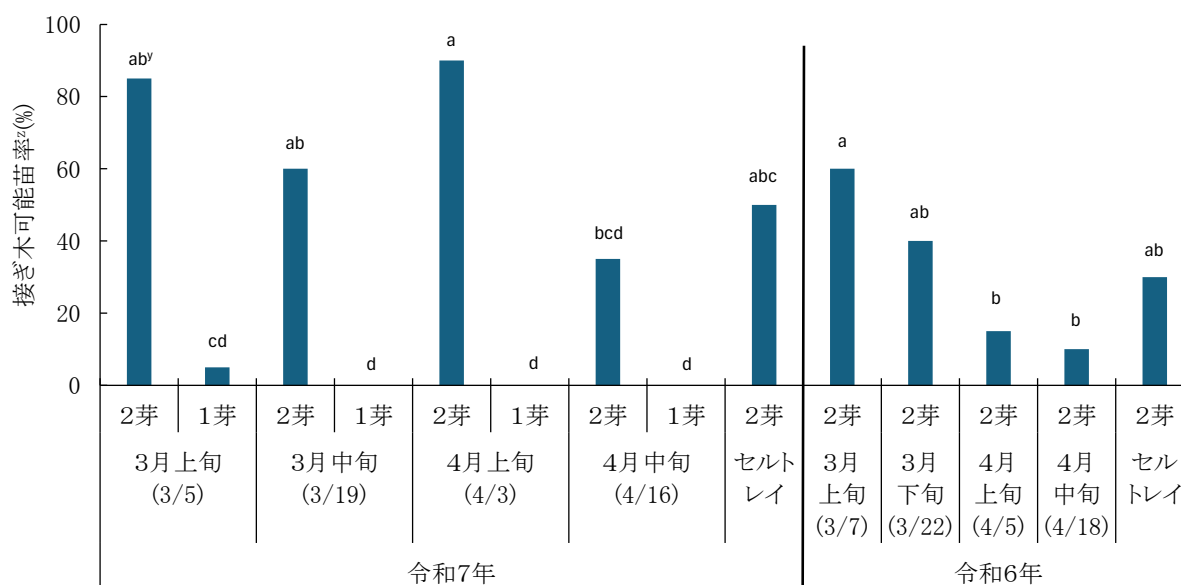


図3 2芽挿し及び1芽挿しによる圃場直接挿しでの接ぎ木可能率（令和6～7年）

^z 新梢基部から約10cm上の節間の径が4mm以上のものの割合

^y マラスキーロ法により年次内の異符号間に5%水準で有意差あり

[その他]

研究課題名：ブドウ苗木の安定生産技術の開発

予算区分・研究期間：県単・令7年度

研究担当者：中島譲、久保田朗晴、平井一史、上田一輝、白石陸人、渡辺真帆

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令3 \(33-34\)](#)、[令6 \(29-30、33-34\)](#)

2) ブドウ苗木栽培手引き～「緑枝接ぎ法」編～